



その他

6-1 学会等の参加

(1) 第64回日本人間ドック学会学術大会

年 月 日	演 題 題 目
令和5年9月1日から 令和5年9月2日まで	脳ドックの50歳時受診の有用性について

筆頭発表者：橋口勝

共同発表者：平山幹生 祖父江功 森則久 山中暁弘 金井沙耶香 藤牧爽花
伊藤和幸

【背景・目的】 春日井市では健康寿命の延伸を目的として、市民を対象に脳ドック健診を実施し、特に50歳の市民を啓発年齢とし脳ドック受診を勧奨している。脳ドックガイドラインでは対象者を中・高齢者とし、積極的に脳ドックを勧めるように勧告されているが、がん検診でみられるような推奨年齢がみうけられないため、春日井市が実施している50歳時の脳ドック受診が有用か検討したので報告する。

【対象・方法】 対象者は、当施設が稼働を始めた2014年6月から2022年3月までの脳ドック受診者8,400名（男性3,962名 女性4,438名）。年齢により6群（50歳未満、50歳、51歳から59歳、60歳から69歳、70歳から79歳、80歳以上）に分類し、将来の認知症の発症に関連がある慢性虚血性変化、頸動脈プラークについて年齢ならびに動脈硬化危険因子（高血圧症・脂質異常症・糖尿病・喫煙・肥満）との関連について検討した。

【結果】 慢性虚血性変化と頸動脈プラークの有病率は年齢の上昇に伴い増加した。慢性虚血性変化、頸動脈プラークの有病率は、50歳と比べ50歳未満の男女では有意に低かった（ $P<0.001$ ）。51歳以上の男女4群では、有意に高かった（ $P<0.001$ ）。また、動脈硬化危険因子の有無は、慢性虚血性変化、頸動脈プラークの有病率に有意差を認めた（ $P<0.001$ ）。さらに動脈硬化危険因子の増加に従って、慢性虚血性変化、頸動脈プラークの有病率は有意に増加した（ $P<0.001$ ）。

【結論】 慢性虚血性変化、頸動脈プラークを発見することは、生活習慣の改善の契機となり認知症の発症予防に効果がある。そして、動脈硬化危険因子の増加に従って、有病率は増加傾向を示すため、動脈硬化危険因子のある者に対しては年齢に関係なく脳ドック受診勧奨が必要である。また、動脈硬化危険因子の有無に関わらず、50歳を境界に有病率に有意差があることから、50歳を啓発受診年度として、脳ドックの受診勧奨することは有用である。

年 月 日	演 題 題 目
令和5年9月1日から 令和5年9月2日まで	長期的な減量効果の維持にヘルスワーカーによる継続的な関わりが与える効果の検討

筆頭発表者：増川理恵

共同発表者：松久貴晴、中村なつ恵、森則久、水野奈々、加藤郁奈、竹田麻子、
林真弓、佐藤寿一、伊藤和幸

【背景・目的】生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底には、食生活習慣の改善と運動習慣の定着による減量効果が有効とされる。しかし、これらによる減量効果は短期的には有効だが、好ましい食生活習慣と運動習慣の改善を継続することは難しく、長期的な減量効果は不十分である。そこで、長期的な減量効果を維持するのにヘルスケアワーカーによる継続的支援（月1度の電話介入）が与える効果を検討した。

【対象】2020年4月～2021年1月の人間ドック受診者5,857名（女性2,796名）のうち、年齢が74歳以下でメタボリックシンドローム診断基準（IDF基準）で腹囲とその他のリスクが2つ以上該当する者1,031名（女性663名）へ郵送で勧奨し、希望した31名（女性28名）

【方法】2021年4月（0W）から週1回×12回の当センター生活習慣改善プログラムにて集団指導を実施。教室終了（13W）後、月1度の電話介入を2022年3月（52W）まで個別に実施。解析は0Wと13W毎の体重・腹囲測定と血液検査を実施した24名で行った。統計手段は経時的データ比較に一元配置の分散分析を、介入前の基準値との比較に多重比較のダネットの方法を用いた。有意水準を5%未満とした。統計解析ソフトはSPSS. ver27を用いた。

【結果】0W、13W、26W、39W、52Wの体重と腹囲の平均値に統計学的有意差を認めた（共に $p < 0.001$ ）。体重に関し、0W(64.8 ± 9.4 kg)と比較して、13W(63.1 ± 9.8 kg)、26W(62.5 ± 9.9 kg)、39W(62.6 ± 9.9 kg)、52W(62.6 ± 9.9 kg)はそれぞれ有意に体重が減少した（全て $p < 0.01$ ）。

【結語】ヘルスケアワーカーによる月1度の電話介入は、52Wまで体重と腹囲を有意に変化させ、介入開始前と比べ体重の減少維持効果を認めた。当センター生活習慣改善プログラムにより得られた減量効果を維持するのに、月1度の電話介入が一定の効果を示したものとする。月1度の電話介入が減量効果の維持に影響を与えた要因については今後の研究課題である。

6-2 会議活動

【健診担当者会議】

ア 目的・内容：健診事業にかかる各ミーティング（臨床検査技師ミーティング、診療放射線技師ミーティング、看護師ミーティング）を統括し、健診事業の円滑な実施に資する。

イ 開催：原則第1水曜日 午後3時30分～

ウ 構成：7名

【医療安全担当者会議】

ア 目的・内容：医療の質の向上と安全管理及び院内感染対策を総合的に企画・実施する。

イ 開催：原則第2水曜日 午後3時30分～

ウ 構成：6名

【サービス向上担当者会議】

ア 目的・内容：施設利用者に対するサービスの改善と質の向上の推進を図る。

イ 開催：原則隔週金曜日 午後3時30分～

ウ 構成：7名

【事務会議】

ア 目的・内容：事務管理・施設運営に係る事項を協議し、効率的な法人運営及び事務執行に資する。

イ 開催：原則第3水曜日 午後3時30分～

ウ 構成：5名

【健康づくり担当者会議】

ア 目的・内容：各センターの健康づくり担当者ミーティングを総括し、健康づくり事業の円滑な実施に資する。

イ 開催：原則第2金曜日 午後2時30分～

ウ 構成：6名

【年報編集委員会】

ア 目的・内容：事業団の年報の編集・作成を行う。

イ 開催：年間2回、その他担当ごと編集作業を実施

ウ 構成：7名

【機関誌編集委員会】

ア 目的・内容：事業団の機関誌の編集・作成を行う。

令和5年度は「vol.16 忍び寄る骨粗しょう症」、「vol.17 痛風 風が吹いても痛い・・・あなたを痛風が襲う」を作成。

イ 開催：随時

ウ 構成：6名



機関誌 新発健vol.16、vol.17



医療安全研修（7月）



接遇研修（2月）

年報作成委員会

令和5年度版 公益財団法人春日井市健康管理事業団年報

令和6年12月発行

編集・発行 公益財団法人春日井市健康管理事業団

〒486-0804

春日井市鷹来町1丁目1番地1

TEL 0568-84-3060

FAX 0568-84-3682

